

嘆 張 書

一 吾々委員並心之修業員ハ内ハ工場長ヲ絶對ニ信ス  
 二 工場長ノ仰ハ恊トシテ力ニ依リテ認給後ノ達成ヲ期シテ工場長ニ嘆張ス  
 三 臨時三割増シヲ本給ニ繰入レシ度ニ  
 四 更ニ三割増シノ臨時増給ヲセシ度ニ  
 五 更ニ金給ヲ減セサル様セシ度ニ  
 六 更ニ給付額ヲ減セサル様セシ度ニ  
 七 同志會ヲ解散ニ致シテ金給ヲ分限シ度ニ  
 八 三割増給ヲ九月次ラ停サレシ度ニ  
 九 自身百金捐助金ノ取ル様アリテシ  
 右未議ス  
 昭和五年一月十一日

7.14  
1435

勞 組 第一二二九號

昭和五年四月十七日

警 視

社 會 高 長 官  
 各 廳 府 縣 長 官

鐘 淵 紡 績 株 式 會 社 臨 田 正

告 要

後業員側委員ハ作業之後事  
 十六日委員會ヲ解散シ聲明書  
 總同盟ハ職工定ヲ訪問シ組合加入  
 社民系紡績減給及対斗争同盟  
 日本紡績労働組合鐘紡同盟  
 大衆党ニ中心トシテ鐘紡同盟対策委員會ハホス

前社長武藤に賜つた三百萬圓、重役の價與五十萬圓は、諸君の血と肉の塊だ。重役が自動車で贅澤な遊びをしてゐる時、従業員の家族は、貧乏に泣いてゐるのだ。  
 諸君!!! 躊躇してゐる時ではない。今後最愛の妻子をどうして食はしてゐくんだ。團結の力を以て四割値下を勇敢に蹴飛ばせ。労働者を踏み臺として金儲をする、資本家の手先反動團体の醜態。労働者の幸福は、労働者自らの果敢なる闘争を以て獲得するんだ。  
 手當を本給に直させろ  
 手當四割値下に絶對反對だ  
 吾が總同盟は全國數萬の會員を動員し大阪に、神戸に各地到る所の鐘紡工場諸君に對し精神的、物質的に極力應援すべく準備された

日本労働 紡績労働組合本部  
 芝區三田四國町二ノ六  
 電話 三田、四三六  
 全 南 子 住 出 張 所  
 南 子 住 出 張 所  
 南 子 住 出 張 所  
 鐘紡減給反對對策事務所  
 鐘田町三三三小町